

平成20年度（2008年度）

上川口小学校学校経営計画

子どもの「今」「ここ」を大切にし、
子どもの未来を切り開く教育実践を、
明るく元気な職場・学校づくりを中心に
保護者・地域とともに展開する

学校長 平田 和孝

学校経営の柱

学校づくりを3つの層（教育課程づくり、学校組織づくり、社会的条件づくり）でとらえ（別紙参照）、学校経営を推進する。

（1）文化・科学・芸術の基礎基本を学び、「確かな学力」を身に付けさせ、いのち・人権・平和・民主主義を大切にした【教育課程づくり（PDCA）】を推進する。
教育課程届第1表・2表をもとに具体的・創造的に展開する。
教育実践のPDCAを確立する。

（2）わくわく、いきいきした【学校組織（教職員集団）づくり（PDCA）】を推進する。

教師としての3つの喜びを味わえる学校をつくる。

自己成長感＝達成感や伸長感、

有用感＝子ども・同僚・保護者など社会的に役立つ喜び、

帰属感＝この学校、この職場の一員としての喜び

自らの実践が「社会的・歴史的実践」であることを自覚し、3つの目と力を持つようになること（教養と専門性の統一）。

専門家としての目（資質・指導力・「授業力」の向上）

組織者としての目（自己と他者、もの・ごとの3項関係に注目し、関係を組織する力（組みかえる力）をつける

統治主体としての目（自らの実践を社会の歴史の中に位置づける力）

「みんな」と「ひとりひとり」を統一的にとらえ、「みんなで」同僚性を発揮しながら「一人一人を大切にしたい」創造的な実践を展開できるようにする。

服務規律を確立し、組織の一員としての自覚をもとに役割と責任を果たす。

（3）子どもと教育めぐる保護者・家庭・地域の願いをつかみ、共に要求を実現する「地域に根ざす」【学校と教育における社会的条件づくり（PDCA）】を推進する。

子ども・保護者・地域対応における「せっかちな一般化」を戒め、深部に潜む親と子の願いを掘り起こすことに努める。

トータリティ（総合的）、リアリティ（現実性）、アクチュアリティ（実践性）を指標に、学校・家庭・地域の3者の関係を具体的に把握し、対話・交流・共同の取り組みを進めることで「安心と信頼」の学校づくりを推進する。

地域が生活と文化の拠点であることに注目し、学校の持つ教育「機能」だけでなく、福祉、文化的機能にも注目し、「地域の中の学校」のあるべき姿を考えて学校づくりすすめる。

経 営 計 画

1. 教育課程づくり

(1) 学校の教育目標	評価・改善等
<p>児童・保護者に学校の教育目標をわかりやすく伝え、いつでもいえるようにする。</p> <p>「か」・・・考える子（知：思考力） 「み」・・・みんなで進む子（徳：社会力） 「か」・・・体も心も元気な子（体力・精神力） 「わ」・・・わくわくドキドキする子（豊かな感性）</p>	
(2) 学校の教育目標を達成するための計画	
<p>ア 「確かな学力」を身に付けさせる。</p> <p>課題解決型の「か（感じる＝五感の動員）・み（見つける＝課題発見）・か（考える＝課題解決のすじみちをつける）・わ（わかったことをまとめる）・しょう（将来に生かす＝発展・応用）」を「学び方」の基本とし、体験的な活動を取り入れながら、各教科における「か・み・か・わ・しょう」学び方を具体化し、推進する。</p> <p>授業改善プランをもとに、少人数学級の良さを生かし、指導の充実を図る。</p> <p>基礎・基本の指導の徹底のためモジュール学習を充実させる。</p> <p>全体計画と学年別指導計画を作成し、週案簿の充実を図ることで時数確保と教育実践のPDCAのサイクルを確立する。</p> <p>「授業力」向上のため、全員研究授業を中心とした校内研究を重視し、指導法（「かみかわしょう」学び方）の工夫と充実を図る。特に、国語科における読解力の指導法を重点とする。</p> <p>生活習慣の見直しを図り、家庭での読書習慣、学習習慣が身に付くよう家庭との連携強化を図る。とりわけ、漢字の読み書き能力の充実を図るようするため、漢字検定試験年2回を実施する。また、読書活動に当たっては、図書館ボランティアを10名以上確保し、学校図書館活動計画に沿って、読書活動の充実を図る。</p>	
<p>イ 人権・道徳教育の推進</p> <p>自然体験、社会体験活動を重視し、全教育活動を通じて、自然と人間にやさしい児童を育成する。</p> <p>人権教育の全体計画・学年別指導計画の充実を図る。また、「いのちの日」や道徳授業地区公開講座を通じて、家庭・地域と共同して、人権尊重の実践力を育成する。</p> <p>縦割り班活動など異年齢集団の交流の場を設定し、お互いの役割分担と協力意識を高め、他者への思いやり、環境美化、自然愛護などの心の育成と実践力を培う。</p> <p>児童相互の話し合い活動を充実させ、発達段階に応じて、自発的・自主的な活動ができるようにする。</p>	
<p>ウ 生活指導</p> <p>基本的な生活習慣や社会的ルールを身につけさせるため、挨拶や言葉遣い、ものの取り扱い方など、思いやりと規範意識をはぐくみ、目的を持って最後まで粘り強く丁寧に取り組む自主的態度を育てる。</p> <p>週1回の生活指導朝会を充実させるなどして、児童理解に努め、いじめ、不登校等に関する問題に学校全体で一致協力して取り組み、登校支援の充実を図る。</p> <p>児童の安全確保のために、セーフティ教室を実施するとともに、地域安全ボランティアや町会などと連携し、より一層の安全指導の充実を図る。</p> <p>特別支援教育については、個別指導計画作成をたて、児童理</p>	

<p>解と共に、指導の充実を図る。</p>	
<p>工 特色ある教育活動を行い、地域に根ざした学校づくりを推進する。</p> <p>地域の自然環境を生かした、環境教育全体計画を作成し、学年別指導計画をもとに、自然探検・発見学習を、年5回の自然・野鳥観察会を中心に充実させる。このため、児童が自ら課題をもって取り組み、調べ学んだことをまとめ・発表・発信する活動の充実を図る（「野鳥観察カード」の活用など「愛鳥」とITの結合）。</p> <p>地域の教育資源を生かし、自然や文化・人々とのふれあいを大切にした活動を行い、思いやりの心や地域への愛着・郷土愛を育てる。とりわけ、上川子ども獅子の取り組みを、成功させる。</p> <p>給食の自校方式を生かした食育計画を活用し、指導の充実と工夫を図る。</p> <p>情報教育の全体計画、学年別指導計画を作成し、ICTのリテラシー能力の育成、充実を図る。このため、ホームページ作りを職員全員で計画的に行い、子どもの活動と結合させるようにする。</p> <p>P T A 活動、青少対「めだかの学校」はじめ、保護者・地域と共同して、社会的な学びの場、体験の場づくりをおこない、学校・家庭・地域の三者の役割分担と共に共同事業の場を広げていく。</p>	

2. 専門的能力・資質の向上と学校組織（教職員集団）づくり

<p><u>(1) 研修・研究</u></p> <p>全員研究授業による指導力の向上（「か・み・か・わ・しょう」学び方の研究仮説とその実証授業）</p> <p>校内研究による国語科の読解力指導法の重点研究（研究協力校としての発表）の推進</p> <p>学校公開年3回の実施</p> <p>長期休業中の教育課題研修の充実</p> <p>キャリアプランに基づく自己研修の充実</p> <p><u>(2) 学級経営・専科経営の充実</u></p> <p>学級経営案の作成（保護者説明責任）、指導計画（シラバス）作成に基づくそのP D C Aの充実（週案簿提出の定着など）</p> <p>開かれた学級経営の推進（シラバスの説明、保護者会の充実、保護者との連携強化）。</p> <p>情報の発信（月1回以上の学年便りの充実、ホームページの充実）</p> <p>教室・学習環境の整備充実</p> <p><u>(3) 校務分掌</u></p> <p>低学年、中学年、高学年の各部会の定例化とその充実（指導法の交流、児童理解の推進）を図る。</p> <p>校務分掌各会議の定例化と原案提案能力の向上（各分掌内部の目的、計画的な運営と外部への目的意識的な働きかけによる合理的な運営）</p> <p>生活指導（特別支援含む）全体会議（年3回）、生活指導朝会（週1回）の計画的運営と充実</p> <p>職員会議（生活指導全体会、特別支援全体会を含む）による共</p>	
--	--

<p>通理解と協働体制の構築</p> <p>(4) 服務</p> <p>服務事故防止研修(月1回)と厳守 個人情報の管理、セクハラ、体罰防止、交通事故防止等 法令、管理規定の遵守</p> <p>(5) 保健管理・安全管理の徹底</p> <p>日常の健康観察(児童出席簿)、 健康診断の実施 学校保健計画の作成・実施、学校環境衛生の管理 学校保健委員会の実施および、医療機関との連携 学校事故、不審者対応等緊急対応の危機管理体制(予防管理を 含む)の確立 安全・防災計画、体制の整備 登下校安全点検と校内安全点検の実施 交通事故の防止、自転車等の事故防止</p> <p>(6) 事務管理の徹底</p> <p>個人情報の保護(電子メディアの管理を含む) 予算の適正かつ効率的執行 私費管理の徹底(明朗会計と決算報告)</p> <p>(7) 教材・教具、施設・設備管理と教育環境整備</p> <p>谷戸田・裏山・学校池の環境整備事業 教材・教具の整備・補充(学期1回の定期点検と日常点検) 安全点検月1回実施と校内巡視による日常点検の徹底</p>	
--	--

3. 自己評価・学校評価

<p>(1) 自己申告書による目標の設定と達成状況の評価</p> <p>(2) 各分掌のPDCA</p> <p>(3) 学校自己評価、学校関係者評価(保護者)の充実と活用を 図る</p> <p>(4) 学校評議員会年3回の充実</p>	
--	--

4. 保護者・地域住民および関係機関との連携

<p>(1) PTA活動の充実</p> <p>(2) 青少対「めだかの学校」の充実</p> <p>(3) 地域教育資源の活用(ボランティアなど)</p> <p>(4) 自治会など地域団体との連携・協力(施設利用など)</p> <p>(5) 児童相談所、子育て支援センター、市関係機関、警察、消防 等との連携</p>	
--	--

学校事務職員の組織目標

平成20年4月1日

八王子市立上川口小学校

校長 平田 和孝

1. 仕事を進めるにあたっての「心構え」として

「教育課程づくり」・・・「児童の教育」と「学校事務」は教育の両輪という自覚と目的意識を大切にする。

「正確」・・・状況・事実・案件などを正確に把握し、正確に処理できること

「明確」・・・誰が見ても、疑問の余地なく、根拠・理由がはっきり説明できる。

「迅速」・・・案件の迅速な処理が信頼を生む。

「効率・効果」・・・案件の効率的処理と活用の効率と対費用効果を考える。

「美しく清潔に」・・・事務室、教材室、用度室の整理・整頓など、事務職員の人柄・事務室の雰囲気をつくる。

「温かさで誠実さ」・・・人と人をつなぐのは誠実さと温かさ。

2. 文書事務と管理

文書受付事務の迅速で適正な処理（とりわけ、ドミノメールの的確な処理）

事案の起案に関する、正確で明確な、上司への報告と上司の判断を受けてからの適正な処理。

公簿など文書管理規程に基づく適切な文書ファイル管理。

PCによる事務処理の効率化

各種台帳の整理

3. 予算執行・管理

教育課程の計画に基づく、予算編成。

教育課程と予算書に基づく適正で効率的な執行

予算執行計画にもとづく、年間を通じての適正な執行。

金銭事故防止の工夫

学年会計の明確化のための学年会計簿の監査と、保護者への決算報告。

市教委および市事務職員との連携強化

保護者・業者癒着への配慮

私費負担状況の把握と調査処理。

4. 物品・施設・設備管理

巡回、検査の定期化による、安全で効果的な使用・活用の工夫と保守管理

適正購入計画と在庫調整、維持、管理

用度室および教材室の整理と管理

5. 給与・旅費の事務と管理

職員データの整理・管理、事故防止

電算事務の正確な処理とPC活用。

金銭事故防止策を講じる。

6. 福利厚生事務

職員の福利情報を日頃から把握しておく。

職員の求めに応じる、適切な説明と迅速な福利事務処理を心がける。

7. 窓口・渉外事務

玄関受付業務（名札、受付簿の記入、用件の確認など）での誠実な対応。

電話対応を丁寧な。

不審者、不審電話に注意する。

8. その他

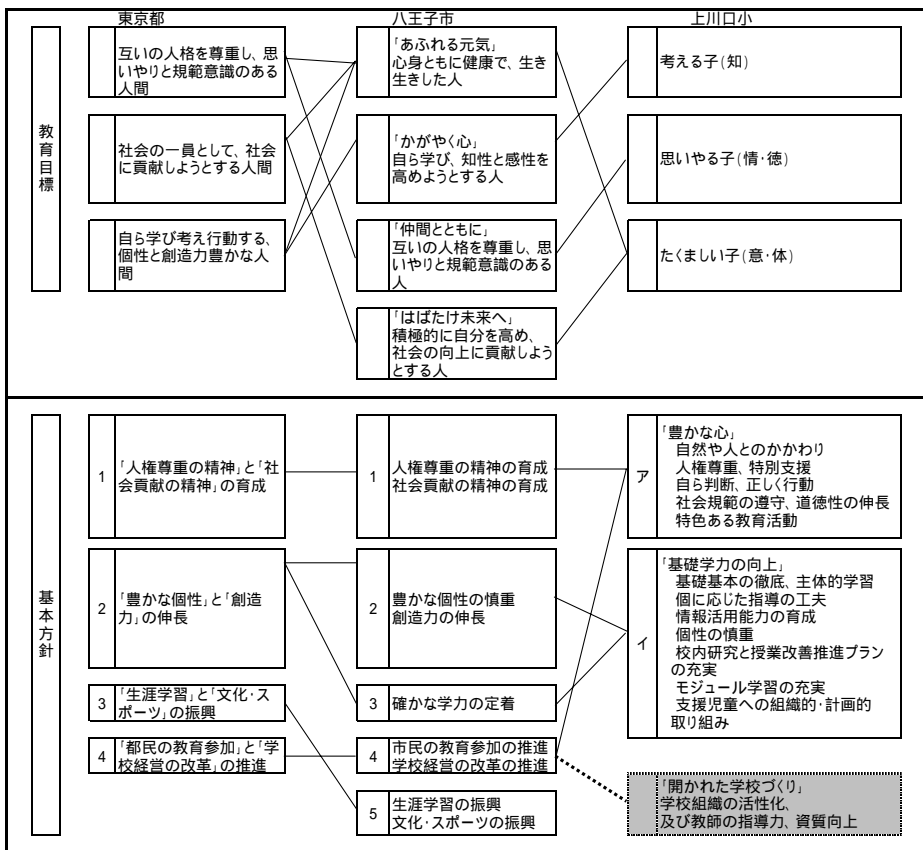
事務職員としての職務研修に心がける

自己申告による目標管理を常に意識する。

教頭・校長への報告・連絡・相談を常に心がける。

組織の一員としてのチームワークの発揮をこころがける。

【資料1】東京都、八王子市、及び上川口小学校の教育目標及び基本方針の関連



1) 「教育」と「社会」の連関のなかで人間の存在をどうみるか

人間らしさの特徴は、目的意識的活動。<科学・技術、芸術・文化の創造(継承と発展)> 最大の目的意識は「平和」(人権尊重と自然及び社会環境における安全と安心=消極的平和と文化の創造=積極的平和)、社会はそのための支えあいの仕組み。ちなみに憲法のつくりは、平和主義のもと人権保障(自由的権利と社会的権利)とそれを保障するための統治機構(民主主義=国民主権と自治)の2部構成になっている。

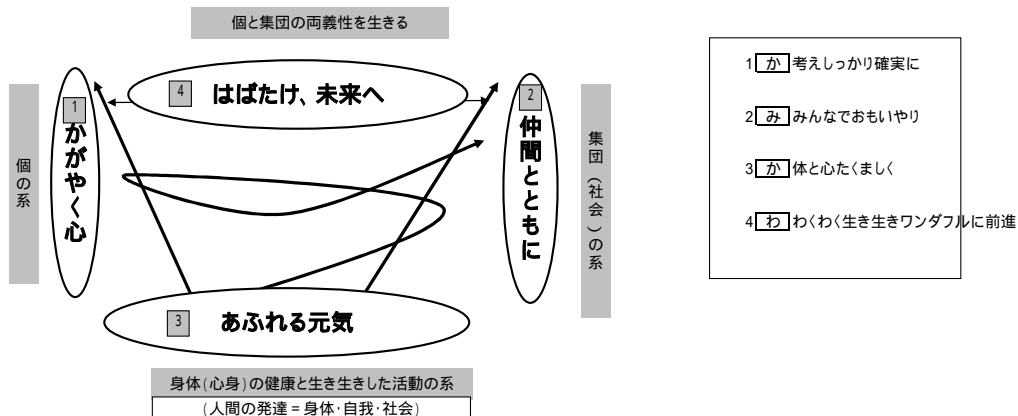
人類という「類」の特長は、個と集団(社会)の両義性を生きる。<社会的存在> 従って、個と集団の関係性を生きる上で大切なのは、物事の性質や規則性・法則性など真理・真実を「認識」する力と行為・行動の「段取り」をつけ、人との「折り合い」をつけ、みんなで「手をつなぐ」力。

2) いくつかの人格形成論(人間観)の混在

心理学的人格論・・・知・情・意の3つの側面のみで、これに身体・自我・社会の関連を探る。
 古典的教育学的な人格論・・・知育、徳育、体育の三育論
 哲学的な?人格論、心身二元論にもとづく感性と知性(感覚と認識)、或いは形而上の認識における理性と悟性、或いは東洋的心身一元論。

3) いずれにしても、社会的要請が基礎になって、人間像、目標像、基本方針が出てきている。従って、この背景・原因・理由などの「なぜ?」を理解しておきたい。原理的理解と社会的理解のうえに、地域や子どもの実態から教育目標を設定したい。

【八王子市教育目標と上川口小の目標の構造化】by 平田



地域に根ざす「開かれた上川口小学校づくり」の方針（三層構造図）

八王子市立上川口小学校 校長 平田和孝

社会的背景・指針	「共に生きる力」を育む教育課程の編成実施と教育実践の層	別紙教育課程届参照	児童の実態から
<p>【スィンク、グローバル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ケルン憲章（生涯教育の目的：先進国首脳会議） レインボープラン（文部科学省） 中教審答申 学習指導要領 憲法・教育基本法 児童の権利条約 ユネスコ「非暴力と平和の10年」 サラマンカ宣言 学校教育法・地公法などの法令遵守 <p>【アクト、ローカル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域住民の願いと期待にこたえる 地域の特性・教育資源を生かす（自然・文化・歴史及び暮らしと福祉など） 少子化と高齢化の中の異世代間平等と共生 情報公開 説明責任（アカウントビリティ） 情報化社会と積極的な情報発信によるネットワークづくり <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 東京都教育委員会が望む教師像 教育に対する熱意と使命感を持つ教師 <p>子どもに対する愛情や教育者としての責任が強く、子どもの指導に時間を惜しまない教師</p> <p>豊かな人間性と思いやりのある教師</p> <p>あらゆる生命を慈しむ温かい心を持ち、柔軟な発想や思考ができる教師</p> <p>実践的な指導直のある教師</p> <p>物事をわかりやすく要約・説明できる表現力や説得力がある教師</p> <hr/> <p>心の東京ルール7つの呼びかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日きちんと挨拶させよう 他人の子どもでも叱ろう 子どもに手伝いをさせよう ねだる子どもにがまんさせよう 先人や目上の人を敬う心を育てよう 体験の中で子どもをきたえよう 子どもにその日のことを話させよう 	<p>1. めざす子ども像＝「か・み・か・わ」の子</p> <ol style="list-style-type: none"> 「か」 すじみちをたてて考える子……真理・真実を追究する知の力 「み」 みんなでおもいやり、ともに手をつないで進む子……ともに社会をつくる力 「か」 からだもこころも元気なたくましく挑戦する子……目的意識（夢や希望）をもって要求を実現する意欲と意志の力 「わ」 わくわく、どきどきする子……「おや、なんだ」と豊かな感性を持ってものごとに向き合う力 <p>2. 教育実践の基本的な柱</p> <ol style="list-style-type: none"> 全教育活動 自然・人間・文化を愛し、平和を求め、真理・真実を追求して、友達と手をつないで進む子どもを育てる 教科学習 基礎基本の定着をはじめ、どの子にも「確かな学力」を保障する「わかる・できる」楽しい授業づくり 教科外活動 自主・自立・自治・共同・連帯の力を引き出す「話し合い」活動をもとにした、生活規律づくりと文化活動づくり 学び 豊かな生活体験や「探検・発見・学びあい」を重視する、みんなとひとりひとりを大切に学習集団づくり 学び方の基本＝課題解決型「か（感覚）み（課題の発見と解決のヒントを見つける）か（筋道を立てて考える）わ（わかったと整理する）しょう（将来に生かす、生活との結合、発展、応用） <p>3. 教育実践の基礎としての「教師と子どもの人格的対話・交流」を大切にする。</p>	<p>【重点】</p> <p>「確かな学力」を身につけさせる</p> <p>「主体的な学習」「か・み・か・わ・しょう」学び方</p> <p>特色ある教育の充実（野鳥観察や自然体験、農業体験）</p>	
	<p>一人一人の自主性、個性や同僚性に支えられた学校組織の活性化と合目的学校運営の層</p> <p>1. めざす教職員集団像</p> <p>教師としての3つの喜び（自己成長の喜び みんなの役に立つ喜び 「この学校の一員だからこそ」の喜び）を味わうために「共に生き、支えあい、成長する教職員集団」を創り上げること。</p> <p>2. 教職員集団づくりの柱</p> <ol style="list-style-type: none"> 自主性と持ち味を生かす 教職員一人一人の自主性を大切に、持ち味を生かした学校組織と教育実践の活性化を図る。 役割分担と責任の明確化 「話し合い」による、目的意識と合意の形成及び役割分担、個人責任に基づく、「共同」の取り組みの推進。 機動力をつくる 学級・学年づくりと学校づくりの「組織の縦系（校務分掌）を通す」合目的学校運営組織の確立・充実。 <p>3. 教職員の専門的能力・資質の向上</p> <ol style="list-style-type: none"> 教師がつける4つの力 専門的能力・資質の向上（「授業力」をはじめとした実践的指導力や実務能力）「不自由さの自覚が基礎」 組織管理運営能力（対話・討議能力、同僚性の発揮と目的意識的な組織的能力）手をつなぎPDSのサイクルを確立する。 統治能力（教育を取り巻く社会情勢を分析し、自らの実践を、社会的・歴史的实践として位置づけ、変革と創造に結びつける力） 子どもを通じて、家庭・地域と手をつなぐ力 自己実現と自己申告書・キャリアプラン……目的意識的な教育実践を展開するための「自己実現書」に 学級経営案と学校づくり……教育実践の方針書として位置づけ、子ども、家庭、地域の協働と共同を促すもの。また、同僚との関係においては、共通理解の上に、第1学年から第6学年までを見通す、児童の実態や発達段階を考慮した、学校づくりのための実践の指針として考える。 年間指導計画と週案簿……週案簿による、Plan（計画）・Do（実践）・Check（点検）・Action（行動）の実践サイクルを確立することによって、よりよい授業を追究する。このことで自己教育力を高める。 「研究と修養」が教師を育てる……学校としての教育課題集団研究（校内研究の重視）と「キャリアプラン」作成における目標の設定（専門の研究教科・分野を）を重点化する。 このほか、教師、養護、学校事務、給食、用務などの異職種間連携と同僚性の発揮と学校の一体感の創出する。 	<p>【重点】</p> <p>学力分析と授業改善</p> <p>特別支援教育体制の確立と充実（生活指導・教育相談と統一化する）</p> <p>指導法の工夫・改善（全員授業による校内研究の充実）</p>	
	<p>子どもをとりまく社会的条件や環境と家庭・地域との連携・協力、共同・参画の層</p> <p>1. 地域を学び、地域から学ぶ</p> <p>地域は「生活と文化の拠点」であることを理解し、地域の自然、文化、歴史、民俗など人々の「くらし」を積極的に理解する。上川子ども獅子の取り組み</p> <p>2. 地域に学び、地域の期待や要求をつかむ。</p> <p>学校は「地域の教育文化センター」の機能を持つ（学校から地域をみると同時に地域から学校をみる複眼的思考を）</p> <p>3. 地域で学び、「ふるさとの自然と人々」を愛する子どもを育てる。</p> <p>地域教育資源の教材化とその活用を工夫し、豊かな体験と感動を味わわせる。</p> <p>4. 地域とともに学校をつくる</p> <p>学校・家庭・地域の役割分担を明確にして、それぞれが責任を果たせるように、地域「子育て」のネットワークづくりを推進する。</p> <p>5. 地域に発信する</p> <p>「学校は何をすところなのか」学校情報を積極的に発信し、理解と協力を促す。また、説明責任を果たし学校と地域の双方向性をつくりだす。学校だより、学年・学級通信など各種通信やホームページなどによる、「か・み・か・わ」の教育を発信する。 また、家庭・地域が気持ちよく気軽に足を運べる学校づくり工夫と推進。</p> <p>6. 地域の知恵と力を集め、よりよい学校づくりをめざす。</p> <p>学校評議員制度や外部評議員を活用する。</p>	<p>【重点】</p> <p>保護者・地域との連携協力推進</p> <p>情報の発信（とりわけHPの在りかたとコンテンツの検討）</p>	

1. 「学校づくり」をスポーツの三層（プレイ、チームづくり、社会的諸条件・基盤づくり）と同じように考えてみました。この三層は相互に浸透しあっているものとして考えています。学校づくり3つの柱というように考えてもいいのですが、学力問題ひとつとっても、それを分析的に捉えるには、この三層を掘り起こし関係性をさぐらないとよく見えてこないと思っています。ですから「層」という考え方をしています。

2. 教育実践にあたっては、「やってみなくちゃわからない（実践性）」、「一度だけじゃわからない（継続性）」、「今日がダメなら明日があるさ（科学的・楽天性）」を大事にし、お互い「同僚性」を発揮しあいながら「ともに」成長し合ひましょう。